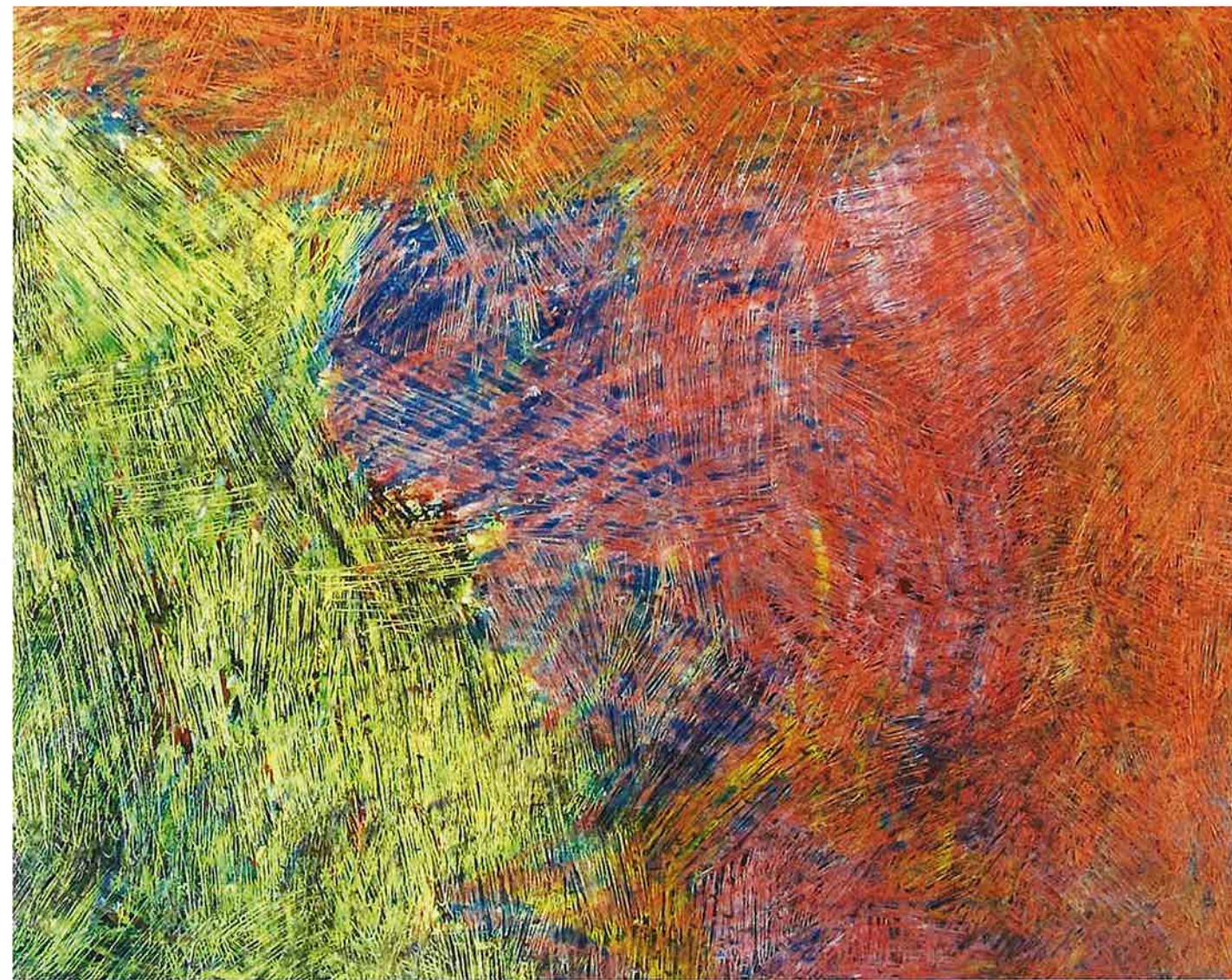


SORAIRO

そ ら い ろ

vol.4

令和6年1月31日発行



冬澤 千鶴「そうなんですかッ！」

社会福祉法人帯広福祉協会 広報誌

アールブリュットとは



魂の叫び・無意識から生まれる芸術

アールブリュットとは、「生(き)の芸術」というフランス語です。正規の芸術教育を受けていない人による、技巧や流行に囚われない自由で無垢な表現を讃えて、1945年にフランス人画家のジャン・デュビュッフェが創り出した言葉。「アウトサイダー・アート」と英訳され、世界各地へ広りました。

現代では、作家の心の在り方に本質を置き、魂の叫びや無意識から生まれる多種多様な表現を含んで、アールブリュットと捉えられています。

帯広福祉協会が運営する地域活動拠点popke(ポケ)の中には、「アートス

ペースぐるぐる」というアトリエがあり、愛灯学園では日中活動の一環で創作活動に取り組んでいます。また、「アートスペースぐるぐる」には創作アドバイザーの専門職員がおり、職員と利用者さんが一緒になつて作品を作り上げることで、心と身体のリラクゼーションを目指しています。

毎年夏頃に「LIFE展」というアールブリュット作品の展示会を開催しており、日々の創作活動の中で生まれる素晴らしい作品の数々を多くの方に見ていただくことで、作家さんたちのやりがいにも繋がっています。

職員紹介



創作アドバイザー

うめだまさのり
梅田 正則さん

北海道帯広市出身
2016年より創作アドバイザーとして勤務



「彼らの作品を見ているとパワーに押し潰されそうになります」と、うれしそうに悔しがるのは、創作アドバイザーの梅田さん。現代美術家として活動する傍ら、地域活動拠点popke(ポケ)にて利用者さんの創作活動を支えています。創作アドバイザーとしての梅田さんのお仕事は絵の指導ではなく、利用者さん一人ひとりと向き合い、彼らの創りたいものを創りやすい環境に整えること。性格に合いそうな画材をさりげなく置いてみたり、日々の体調に合わせて机の位置を変えてみたりと、それぞれが自由に絵を描ける場づくりに励んでいます。

そんな梅田さんも福祉施設に勤めた経験がなかつたため、最初の頃は利用者さんとのコミュニケーションに苦戦していました。しかし、「同じ目線で接していると気持ちを楽にしてくれる」と、今ではpopkeで利用者の皆さんと過ごす時間が自身のリラクゼーションにもなっているそうです。

ひとつの作品をじっと見つめる梅田さんと利用者さん。その目は、日溜まりのように優しくその場を温めています。

社会福祉法人 帯広福祉協会 理事長 道見 英徳

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。新しい年が皆様にとつて充実した良き年でありますよう祈念申し上げます。

昨年は、これまで経験したことがないような猛暑と国際間の競争などの影響で、食料品をはじめとする諸物価が高騰し、日常生活は大変厳しい年がありました。

このような状況下でありますましたが、当法人は新型コロナウイルスの感染防止に努めながら利用者の皆さんに安心してご利用いただけますよう各事業を展開し、また、懸案でありました旧愛灯学園舎は事故もなく解体工事が完了したところであります。

さて、法人を取り巻く環境は、人材の確保など依然として厳しい側面もありますが、今年の干支は「甲辰」で春の日差しがあまねく成長を助く年とも言われておりますので、心新たにして「ひとりは皆のために、皆はひとりのために」との思いを共有し、より信頼される法人となるよう共に頑張っていこうではございませんか。

皆様のご健康とご活躍を心から祈念申し上げ、年頭の挨拶といいたします。



表紙作者紹介



ふゆさわちづる
冬澤 千鶴さん -Chizuru Fuyusawa-

愛灯学園 在籍 1979年11月生まれ(44歳)

可愛いものとお洒落が大好きな彼女は、週末にアクセサリーやコスメを買いに行くのを楽しみにしています。また、モーニング娘。やAKB48等のアーティストも大好きで、ソングと歌を口ずさみながら、日々、作品づくりに没頭しています。



相談つつじ

相談支援の「多(他)職種連携」って？



今回は相談支援業務の中の「多(他)職種連携」について、お話しします。福祉サービスを利用されている方は様々な障がいや疾病、日常生活や休日を過ごす中で不安や悩みを抱えています。年齢や生活環境、自分はどうなりたいか、お子さんであればどうなってほしいかも十人十色です。

利用者さんのより良い生活のために事業所や病院、行政、教育機関、施設関係者、一般企業など、様々な職種(支援者)の方が支援に携わっています。相談支援専門員は利用者さんの生活スタイルに応じて、支援者の方と生活や仕事の状況、身体や気持ちの状態を共有し、必要に応じて会議を開催しています。また、定期的に利用者さんとお話をすると不安や悩みの解消、「こんな風に生活してみたい！」と一緒に考えています。様々な職種の方と一緒に利用者さんの生活を支えるためのお手伝いをさせていただいているます。

めでる

研修会を実施しました！



11月29日に今年度2回目の研修会を実施しました。企業見学や体験を行うことで就労への意欲を高めていただき、創作ヒントを得るために作品鑑賞に出かけるなど、利用者さんの目的ごとに2組に分かれて実施しました。

1グループは他の就労支援事業所の見学です。このグループはほかの事業所ではどのような作業を行っているのか等を見学することで、日々の作業の向上、この先のステップに繋がればと思い、若い方や就職希望者を中心に行いました。2グループは豊頃町のB&B丘に展示されていたための利用者さんの作品展示会(※展示は既に終了)の見学です。普段の創作活動の成果を感じることで今後の創作に対してのモチベーション向上に繋がればと思い実施しました。

各利用者さんがめでるを利用している目的に合わせた研修を企画したつもりです。それぞれの方が何かひとつでも今後に活かしていただけることがあれば、研修として意義のあるものになったと思います。

ひまわり

親子で一緒に作品づくり♪



小学生の長期休み(夏休み・冬休み)の余暇支援として、作品づくりを行っています。親子で作る作品を決め、保護者の方が作成した手順書を見て、お子さんが自立して作品づくりに取り組めるように進めました。事前に職員と保護者の方で打ち合わせをし、どのような形で手順書を提示することが理解しやすいか、お子さんの特性に合わせて確認しています。この活動を通して、本人の得意・不得意を再確認する機会にもなっています。

カント

感染症予防についての勉強会



11月27日、めでる(職員・利用者参加)・カントと合同学習会を開催しました。講師には法人職員の桜井看護師を迎え、感染症についてお話をいただきました。基本的な予防のほか、普段から食事・睡眠・入浴などをしっかりと行い免疫力を高めることも重要であることが伝えられました。ちょっと耳の痛い話もあり、途中耳を塞ぐ方も。その後は、手洗いチェックを使って手洗いチェックです。思ったよりきれいに洗えていないことを知り苦笑い。自身の手洗いの癖などを確認する良いきっかけになりました。引き続き感染症予防対策をしっかり行いながら冬を乗り越えたいと思います。

伏古の里

ここまで長かった4年ぶりの旅行



伏古の里では2023年の夏から秋にかけて4年ぶりとなる旅行をようやく企画・実施しました。何年も中止を受け止めてきた利用者さんのひとりは、新型コロナが5類感染症となった5月にも「自分たちはまだダメなんでしょう」と、それは諦めているのか、それとも期待しないように言っているのか、いずれにしても「自分たちは…」という言葉が支援者として非常に印象的に残るものとなり、旅行だけではなく地域生活としても考えさせられるものでした。それがひとつの決め手となり、意を決しての実施になった気がします。できる限り個々の希望に沿った旅行になるよう希望調査をしました。最終的には個別も含めて10以上のコースに分かれて実施しています。その楽しかった皆さんのお疲れ様でした！来年もたくさん楽しいことをしましょう！

愛灯学園

忘年会



愛灯学園では毎年恒例の忘年会を行っています。新型コロナウイルスは5類となりましたが、感染対策を徹底して皆さんのが楽しめるような企画を実施しています。皆さん大勢での外出が久しぶりであったこともあり、たくさんの笑顔が見られました。用意された料理や職員が企画した出し物等にも満足されており、とても有意義な時間となったようで良かったです。今年も皆さんお疲れ様でした！来年もたくさん楽しいことをしましょう！

みらい

冬休みに向けて



音更町第1子ども発達支援センターは、11月に2回目の機関訪問を終えて、来る冬休みに向けて課題づくりや手順書づくりに尽力しています。

皆さんが楽しみにしている料理支援やバス支援では、子どもたちが高校に行くときや社会に出るときに困らないよう経験値を積んでもらっています。音更町内ではインフルエンザが猛威を振るい、学校閉鎖や学級閉鎖が相次いでいます。楽しい冬休みを迎えるために、健康には充分に気を付けていきたいと思います。

つつじヶ丘学園

サンタさんが来ました！



12月23日、地域交流ホーム「虹」でクリスマス会を行いました♪新型コロナが5類感染症に移行し、数年ぶりに保護者やボランティアの方と一緒に楽しめました！市のボランティアの方にサンタクロースの依頼をすると、白髪・白髭のサンタさんが!!「本物サンタさん、初めて見たー♪」と感動し、目をウルウルさせる子も。(一昨年までは、サンタさんを見ても職員だとバレていました…。)欲しかったプレゼントを手に、おいしいオードブルとケーキでお腹も満たされ楽しいひと時を過ごしました♪

カラービト☆インタビュー

ようこそpopkeへ!

2018年9月より現在地にて、地域活動拠点popke(ポプケ)は誕生しました。「popke」とはアイヌ語で「温かい」という意味です。1階では「しらかば通り美術館」、「アートスペースぐるぐる」のほか、アートを中心としたイベントを開催しています。2階には「就労継続支援B型事業所めでる」、「居宅介護事業所カント」が入っています。

※事業所詳細は各事業所トピックスをご覧ください。



子どもたちの経験の場として

エコカゴづくりのワークショップを開催

コロナ禍でイベント等の開催がなかなかできない状況でしたが、5類になってからやっと少し動き出しました。まずは少人数でのワークショップからスタートです。めでるでは小中学生の長期休みにエコクラフトでミニカゴを作るワークショップを開催しました。利用者の皆さんも先生になり、子どもたちに上手に教えることができ、良い経験になりました。

2回目の開催準備の際に「どんなに不格好でも子どもたちが考えて作る」「わからなければ自分から質問して聞くという機会を作りたい」「試行錯誤して作った方が笑顔で楽しかったと話してくれる」という意見がありました。めでるではエコクラフトの小物を商品として作っているので、上手に作って持ち帰ってほしいという思いがありました。職員間で話し合い、子どもたちの「わからない」のサインに応じ、「伝えた・伝わった・出来た！」も経験できる場として取り組むことにしました。

2回目のワークショップは子どもたちのサインをしっかり感じて教えることができ、沢山の笑顔が見られ、私たちと一緒に笑顔になりました。

子どもたちの成長を共に見守り、ちょっとした経験の場になるのもpopkeの役割。popkeに来られた方が何かに出合って、少しでも温かい気持ちになる。そんな場所になってほしいです。



真剣な眼差しで制作中…

- Q** 普段、車いすで生活をしている上野さんのお仕事はなんですか？
- A** 車の整備や販売を行うファンファクトリー帯広店に勤めています。2023年2月、床ずれの手術以降、在宅ワークでホームページやSNS等の管理を担当しています。
- Q** 在宅ワークでどのように職場の方たちとコミュニケーションをとっていますか？
- A** 2023年10月中旬から遠隔でコミュニケーションがとれる分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を使用しています。職場の方たちとの会話はもちろん、接客もしていますよ。音声以外にもボーズで意思を伝えることができるのが便利です。「なんでやねん！」のボーズとかもあります。
- Q** 分身ロボットを使い始めてからどのような変化がありますか？
- A** 9ヶ月間、非対面で仕事をしていたので「社

- 物事を前向きに捉え、私たちが言いづらい自身のプライベートな部分もほんわかの人たちのためにさらけ出し、社会へ発信している上野さん。けがが治ったお仕事や車いすラグビーでもっと活躍するでしょう。皆さん、お楽しみに！
- Q** 今後、どのように分身ロボットを活用していきたいですか？
- A** 様々な理由で働きたくても会社へ行くことができない人たちがいると思います。僕のような働き方を世の中に広めることで新しい雇用が生まれてほしいと思っています。



【プロフィール】

上野 文士(うえの ふみと)さん

- 1983年9月18日生まれ(40歳)
- 北海道帯広市出身
- 2016年1月より「カント」利用開始
- 趣味は車いすラグビー、キャンプ、ハンドドリップコーヒー



お仕事
手慣れた様子で分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を操作する上野さん。タブレットの画面にはロボットのカメラ越しに職場の風景が映し出されていますが、相手側には自分の様子が分からぬことも使いやすい点だそう。その場にいるような感覚で会議に参加でき、接客ができると、うれしそうに話していました。



【上野さんの一日】

- 平日 ver.
- 7:00 起床、着替え、洗顔
 - 8:00 朝食
 - 8:30 出勤
 - 9:00 分身ロボットを起動、朝礼
 - 12:30 昼食
 - 13:00 分身ロボットを停止、退勤
 - 13:30 療養
 - 16:30~18:30 カント職員訪問、家事または入浴
 - 19:00~21:00 排せつ障害のため週に2度の排せつ作業
 - 21:00 軽食
 - 21:30 洗顔
 - 22:00 就寝

休日は趣味のハンドドリップコーヒーを淹れて飲むことが多く、いつか自分で淹れたコーヒーを人に提供することが今の目標だそうです。



車いすラグビー
上野さんは車いすラグビーの強化育成選手として練習に励んでいました。数年前、左肩大結節骨折が原因で引退しましたが「けがが治ったらまた練習に参加したいです」と、上野さんの瞳からは競技への熱い想いが伝わってきました。現在はブラインドサッカーチーム「とかちflow（フロー）」の監督をしているそうです。

児童に関する支援

ひまわり



帯広市西25条南4丁目9番地
TEL.0155-38-8750
FAX.0155-37-5783
Email.himawari@obifuku.jp

- 児童発達支援事業
- 放課後等デイサービス

音更町第1子ども発達支援センター
みらい



音更町大通6丁目6番地
プロスパ6階
TEL.0155-32-4800
FAX.0155-32-4801

- 児童発達支援事業
- 放課後等デイサービス
- 保育所等訪問支援事業
- 居宅訪問型児童発達支援

つつじヶ丘学園



帯広市西25条南4丁目10番地
TEL.0155-37-3029
FAX.0155-37-6310
Email.tsutsujigaokagakuen@obifuku.jp

- 障がい児入所施設
- ・児童短期入所事業
- ・日中一時支援

カント



帯広市西21条南2丁目26番地8
TEL.0155-67-1581
FAX.0155-67-5573
Email.kanto_kyotaku@obifuku.jp

- 居宅介護事業
- ・居宅介護・重度訪問介護
- ・行動援護・同行援護
- 地域生活支援事業(移動支援)

相談支援事業所
つつじ



帯広市西24条南3丁目70番地11
TEL/FAX.0155-66-7230
Email.soudan_tsutsuji@obifuku.jp

- 指定特定相談支援事業
- 指定障がい児相談支援事業
- 圏域相談支援事業

発達障がい者支援道東地域センター
きら星



帯広市西25条南4丁目9番地
TEL.0155-38-8751
Email.kiraboshi@obifuku.jp

- 北海道地域生活支援事業受託事業

伏古の里



帯広市西25条南3丁目4番地66
TEL/FAX.0155-37-6633
Email.fushikinosato@obifuku.jp

- 指定共同生活援助事業所
- グループホーム9カ所
ガロ(4名)・伏古(4名)・コスマス(4名)・
フォーライフ(4名)・うらら(4名)・たいせい
(4名)・きずな(4名)・ふれあい(6名)・みら
い(6名)

愛灯学園



帯広市西25条南4丁目8番地
TEL.0155-37-5777
FAX.0155-37-5783
Email.aitougakuen@obifuku.jp

- 障がい者支援施設
- ・生活介護・施設入所支援
- ・短期入所・日中一時支援

めでる



帯広市西21条南2丁目26番地8
TEL/FAX.0155-67-5573
Email.aitou_shuurou@obifuku.jp

- 就労継続支援B型事業所
- 作業内容
リサイクル石けん・カラス除けサークルの製作、マン
ション清掃、不用品回収・撤去、印刷(ポスター・のぼ
り・大判プリント・Tシャツなど)、除草(草取り・草刈
り・雑草)、クラフト商品(かご・バッグなど)・オリジ
ナル商品(利用者さんの作品を使用した靴・Tシャ
ツ・ポーチなど)の製作

児童・成人に関する支援

社会福祉法人
帯広福祉協会

〒080-2475 帯広市西25条南4丁目10番地2
TEL.0155-37-5777
FAX.0155-37-5783